

# 令和8年度 学校自己評価システムシート ( 県立志木高等学校 )

目指す学校像	志木高スピリット ( 立志・言志・統志 ) の下、高い志を持ち、自分の夢を実現できる学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>学習習慣の確立と授業改善により、主体的な学びを推進し、学力を向上させる。</li> <li>志木高スピリットを醸成させ、夢の実現に向けたセルフマネジメント力を身につけさせる。</li> <li>安心・安全な学校生活を保障し、学校生活に誇りと自信を持たせる。</li> <li>地域とともに歩む、魅力ある高校づくりを推進する。</li> </ol>
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目 ( 年度達成目標を意味する。 ) は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 ( 8 割以上 )
	B	概ね達成 ( 6 割以上 )
	C	変化の兆し ( 4 割以上 )
	D	不十分 ( 4 割未満 )

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局 ( 教職員 )	名

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )			実 施 日 令 和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<p>【現状】</p> <p>○授業外での学習習慣が確立されておらず、学力の定着に繋がっていない。                      ○端末や機器の整備に加え、端末・充電を忘れることがある。</p> <p>【課題】</p> <p>○家庭学習の必要性を理解させるとともに、具体的な学習方法を示す。                      ○重点授業公開をさらに充実させ、教員の授業力を向上させる。                      ○1人1台端末について、活用方法の改善や情報モラルの醸成など、生徒への指導に注力し、健全な利用を支援する必要がある。</p>	学習意欲の向上と基礎学力の定着	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業学習支援ツールの活用方法を職員へ発信するとともに、ICTを活用した家庭学習の効果的な課題を模索する。</li> <li>LHR等を活用し、定期考査や長期休業中の学習計画立案および学習の振り返りを行わせる。</li> <li>教科間での協力をし、確かな学力の定着に向けた新たな取組を検討する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果から家庭学習時間の増加が確認できたか。</li> <li>定期考査に向けた学習計画が作成できたか。</li> <li>生徒の学習意欲を向上させることができたか。</li> </ol>				
		ICT端末の活用と授業力の向上	<ol style="list-style-type: none"> <li>Google Workspace for Education、Classi、ClassiNOTEについて、活用事例の研究を重ねる。新転任者向けの講習もアップデートし、年度当初に実施する。</li> <li>1人1台端末を効果的に活用するための実践事例の研究を引き続き行う。</li> <li>ICT支援員と連携し、他校の1人1台端末活用事例研究やICTスキルの向上、生成AIの利活用など、研修会などを通じて行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>ICT支援員を活用した簡易支援制度が構築できたか。</li> <li>課題配信のICT化により、情報を共有するシステムを構築できたか。</li> <li>学習コンテンツを効果的に活用できたか。</li> </ol>				
2	<p>【現状】</p> <p>○大学進学率が年々増加傾向にあり、半数を超える生徒が大学へ進学している。                      ○一方で専門学校等へ進学する割合は約3割、就職内定者・公務員合格者の割合は約1割おり、進路先は多岐に渡っている。                      ○年内入試で受験する生徒が多い。</p> <p>【課題】</p> <p>○進学先の決定や受験方法について、最新情報の提供も含めきめ細かい指導が必要である。                      ○スタティサポートの電子解答の改善を継続して行う。                      ○大学進学を希望していても受験への意識は低い。</p>	進路実現に向けた生徒の意識改革	<ol style="list-style-type: none"> <li>各学年とも進路指導計画に沿って履修指導やガイダンス等を行っていく。</li> <li>近年のトレンドや選抜方法についての職員研修会を行う。</li> <li>各教科と連携し資格検定の取得を促す。</li> <li>模擬試験については半年ごとの実施のため全員受験を基本に生徒へ呼びかけや促しを行う。</li> <li>進路通信を学年ごとの発行に変更して作成する。</li> <li>保護者向けの説明会を実施し、進路に関する情報提供を行う。</li> <li>二者面談や三者面談等を通じ、生徒や家庭の進路実現に向けた意識の改革を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>各学年で進路ガイダンスを実施できたか。</li> <li>進路に関する職員研修会を実施できたか。</li> <li>資格検定の取得のための取組を企画することができたか。</li> <li>模擬試験の受験率が向上したか。</li> <li>各学年で進路通信を発行することができたか。</li> <li>進路に関する情報提供ができたか。</li> </ol>				
3	<p>【現状】</p> <p>○学校生活における対人関係や集団生活に対する不安や緊張が強かったり、人間関係に悩みを抱えたりする生徒がいる。                      ○遅刻者数が2学期以後、大幅に増加する傾向が数年続いている。</p> <p>【課題】</p> <p>○困難へ立ち向かう前に諦めてしまったり、ハードルを必要以上に高く設定したりする場面も見られる。                      ○登下校時の自転車事故が減少せず、事故発生時の対応も課題となっている。</p>	自己肯定感を高め、主体的に学校生活を送る	<ol style="list-style-type: none"> <li>教育相談部門にて生徒情報の管理、共有のインシアチブを取る。</li> <li>心身の健康課題や発達特性、家庭環境等多様な視点で生徒を捉え、包括的な生徒支援を行う。</li> <li>SGの活用、研修会を企画する。</li> <li>面談や日常的な声掛け等を通じ、生徒の状態を把握し、適切な支援へつなげる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>多様な生徒に対応するための教育相談体制を構築することができたか。</li> <li>包括的な生徒支援の取組を実践できたか。</li> <li>生徒支援に関する職員研修会を実施することができたか。</li> </ol>				
			<ol style="list-style-type: none"> <li>Shiki Diaryを活用し、日々の生活リズムを可視化し、改善できる箇所を明確にする。</li> <li>校外交通安全指導を実施する。</li> <li>自転車交通安全指導、マナーアップ講習会を実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>Shiki Diaryを効果的に活用することができたか。</li> <li>校外交通安全指導を実施することができたか。</li> <li>マナーアップ講習会を実施することができたか。</li> </ol>				
4	<p>【現状】</p> <p>○学校HPにおいて、日々の行事や部活動の情報、中学生に向けた広報活動が発信できている。                      ○PTA・後援会活動について、PTAは完全任意参加の方針となっている。</p> <p>【課題】</p> <p>○生徒の生の声を届ける機会を設けるとともに、部活動記事の更新も頻度を上げて、動きのあるHPを目指す。                      ○役員の内容や今後の在り方を引き続き検討していく。</p>	学校HPを活用し、生徒とともに本校の魅力を発信する	<ol style="list-style-type: none"> <li>委員会活動の紹介や、行事の際の感想を生徒が作成し、月1〜2回を目標に生徒主体の記事を更新する。</li> <li>各部活動ごとの大会や展覧会のような大きなイベントを調査し、部員が顧問の記事の作成を依頼する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>新たな活動計画を構築することができたか。</li> <li>本校の魅力を広く周知し、入学したい学校として認知されたか。</li> <li>生徒ボランティアを活用した取組みができたか。</li> </ol>				
		PTA活動の企画運営を行い、業務内容を精選する	<ol style="list-style-type: none"> <li>PTA活動がスムーズに行えるようサポートし、学校、地域との連携を深める。</li> <li>さくら連絡網の活用、行事への参加を弾力的に考え直すなど、業務の効率化と削減を狙う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>PTA活動がスムーズに行えるようサポートや見直し、検討することができたか。</li> <li>さくら連絡網の機能を最大限に活用し情報発信ができたか。</li> </ol>				